

◆ 「哲学カフェ」って知っていますか？

前々号(No. 39)のすなっぷで取材した前橋清陵高校で行った第1回清陵・哲学カフェに参加してきました。

放課後、教室の後にスペースを作って、20人くらいの生徒たちが車座に配置したイスに座り、コーディネーターの先生の説明に続いて自己紹介から始まりました。テーマは5つ例示した中から一番希望の多かった「絶対に必要な校則とは？」。モジモジしてなかなか出てこない所、「スマホは校則に入れて欲しいです」と誘い水の話から発言が始まりました。「思いやりがあればマナーモードやOFFにできるから、みんな校則で禁止しなくても…」だんだんみんなの顔も上へ上がってきておとなしい生徒たちも発言に熱が入ってきました。「校則って何のためにあるか分からなくなってきた。」いつの間にか本質的な疑問に到達してしまいましたが、予定の1時間があつと言う間に経ってしまいました。

私はこの哲学カフェを知らなかったのですが、ウキペディアによるとフランスの哲学者マルク・ソーテが1992年にパリのカフェ・デ・ファール(灯台カフェ)で一般大衆が哲学を取り戻すために始め、主題はサンタクロースの伝説から真実、美、性、死にまでおよんだとあります。小川仁志『哲学カフェ 17のテーマで人間と社会を変える』祥伝社黄金文庫や梶谷真

司『考えるとはどういうことか0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎新書という本(この本では「哲学対話」と呼んでいる)も出ているようです。

この企画を紹介してくれた田口有理先生によると日経新聞に連載があり何人かの先生方で話題となり、授業で実践されているようです。実践はもちろんすばらしいのですが、このような実践を模索する先生方の情熱がまたすばらしい。常に現状に満足するのではなく、より良いものを追求し実践することが生徒と学校を変えてゆくのでしょうか。多忙化やら勤務評定やらで厳しい現状の中、掘り起こすべき現代ならではの教育実践がたくさん芽生えている可能性を感じさせてくれました。

◆ 吉幸豊さん、ありがとう

吉幸豊さんが、7月11日永眠されました。享年90。安中公害訴訟や群馬ハンセン病裁判を支援しともに生きる会の活動の先頭に立ってこられました。きり絵作家としても日本きりえ協会事務局長として、戦後の文化運動をリードしてこられました。

ぐんま教育文化フォーラムがスタートする時において、シンボルマークとして、ご自身のきり絵作品を快く提供していただきました。このニュースの奥付や封筒にも登場し、これからも私たちの活動を見守って下さることでしょう。ご冥福をお祈りいたします。

今後の主な予定

- |                  |                            |
|------------------|----------------------------|
| 8月16日(金)～18日(日)  | 教育のつどい2019in 滋賀            |
| 8月25日(日)～9月8日(日) | 小さな夏のパステル画展(高崎市:café あすなる) |
| 8月30日(金)14時30分～  | 原発と自然エネルギー研究部会(フォーラム)      |
| 9月6日(金)13時～      | スタジオ楽書会(フォーラム)             |
| 9月7日(土)10時30分～   | 教育ネットワークぐんま事務局会議(全群教書記局)   |
| 9月13日(金)14時30分～  | 原発と自然エネルギー研究部会(フォーラム)      |
| 9月14日(土)11時～     | 3色パステル画寺子屋(フォーラム)          |
| 9月17日(火)12時～     | 教育相談部会(フォーラム)              |
| 9月20日(金)13時～     | スタジオ楽書会(フォーラム)             |
| 10月5日(土)         | 近現代史ゼミ・フィールドワーク(予定)        |

育ちと学び No. 41 ぐんま教育文化フォーラム

2019年7月26日 発行

〒371-0026 前橋市大手町3-1-10 群馬県教育会館 3F

[TEL・FAX] 027-235-8876 [IP 電話] 050-3419-3803

[E-mail] g-kyoken@nifty.com

[URL] http://gkb-forum.sakura.ne.jp

切り絵・吉幸ゆたかさん作

